

平成21年度 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500022		
法人名	有限会社 グループ 春の日		
事業所名	グループホーム 春の日		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町1-794-17		
自己評価作成日	平成21年11月26日	評価結果市町村受理日	平成22年2月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成21年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業理念に掲げている「ゆとり」をモットーに、職員も生活環境の一部としてとらえる。主体性を持つ(見る、待つ、見極める) その決定を尊重する。居場所を感じてもらう。地域に溶け込み社会参加をする。職員はいつも意識しながら関わっている。
 ・毎月、外出レク、オヤツ作り等のイベント行事があり、入居者様、職員共に楽しみのある生活を送っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はホームの理念である「ゆとり」を掘り下げ、利用者本位のサービスとしての4つの指針を作り上げている。この考え方は職員の理解のもと共有され日々のケアに活かされている。とくに、全職員は入居者にとってホームが自分の家であることを絶えず意識し、自由な外出、外泊や、これまで関わってきた人との関係を途切れさせない支援をしている。また、ホームは行事にも力を入れ、夏に行った職員手作りの「流しそうめん」は入居者のほか家族や町会長、民生委員、近くの子供たちも参加し有意義な交流が出来ている。開設3年目のホームであるが管理者の熱い思いと、職員のケアに対する高い向上心が相まって、今後は期待されるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価(ナノハナユニット)および外部評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆとり」という事業所理念を掲げ、職員も生活環境の一部である。主体性を持つ。(見る、待つ、見極める) 過ごしやすい環境づくり。地域への社会参加ということを日々意識しながら、実践につなげている。	管理者は「ゆとり」と言う理念を基本に、それを掘り下げ4項目のケアサービスの指針を作り上げている。理念はミーティング時にも話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事等では、ご家族、地域の方々の参加があり、交流の場は設けさせていただいているが、まだ積極的に地域行事等への参加はできていない。	ホームで催した夏の流しそうめんでは地域の子供や家族が参加し、町内会で行われた敬老会や夏の盆踊りには入居者が参加し交流を深めている。また、近隣住民が花を持ってきたり、雑巾やタオルを差し入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催もまだ至らなく、地域の方々へは貢献できていない。ただ時折、地域の方々から相談等でお越しいただくことがある為、その際は個々に対応させていただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	21年度では、8月に行われた施設行事の際に運営推進会議を行ったのみで、定期的な開催には至っていない為、報告等はできていない。	21年8月に開催した運営推進会議は町内会長、民生委員、地域住民、家族などが参加して行われたが、その後の開催が出来ていない。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター等とは良好な関係が出来ている。関係者には運営推進会議の意義について改めて理解を求め、開催日をスケジュール化し定期的実施することが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当区域内の社会援護課、介護保険課、障害福祉課とは毎月顔を合やす機会がある為、何かと相談にのっていただいている。	区の介護保険課、社会援護課など入居者に関係する部署から毎月の来訪があり、そのときに相談などを行っている。また、管理者が出かけて情報交換することもある。現在、介護相談員を受け入れる準備をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないということを基本方針とし、定期的な勉強会を実施し、職員間も共通認識をもっていただいている。 ・千葉市主催の身体拘束・高齢者虐待の研修会等にも順次職員も参加し、知識を高めている。	身体拘束をしないという基本方針があり、日々のケアのなかでも具体的な行為を職員間で話し合い、ケアに努めている。また、日中玄関は施錠せず出入りは自由である。	

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員間では、定期的な勉強会、個別面接等で共通認識をもっていただけるようにしている。 ・入居者、家族等の関係についても、関係作りに施設側も介入させていただき、入居者、家族側双方の話しがちゃんと聞けるような関係作りを意識している		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・各研修会、勉強会等の参加はできていないが、万一必要になるかもしれないことを想定して、地域包括支援センター等から情報はいただいている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・実施できている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・管理者、職員側へは意見等表せる機会はあるが、外部へ表せる機会はまだ設けられてない。(現在、介護相談員の受入を要請中)	家族の来訪時には意向を聞くように努めている。行政の苦情相談窓口は重要事項説明書に記載されている。しかし、運営推進会議などでの利用者、家族の意見表出の機会が少ない。	家族会の立ち上げや運営推進会議等、さまざまな場面で意見を表出する機会を設ける工夫が望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月1回の業務ミーティング、個別面接等で意見を聞き、改善できる所は早急に改善できるように努めている。	毎月の業務ミーティングや管理者と職員の個別面接で意見や提案を聞いている。職員の意見を反映し、職員に資格手当が付けられるようになった事例もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場は管理者が作るのではなく、現場の職員が作るものとしている為、職員の個性、経験による実践を出せる場でもあるので、経験豊富な者、そうでない者皆創意工夫して働いていただいている。 ・介護処遇改善の制度も有効活用させていただき、職員の手当て等の幅を広くしていきたい。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・定期的に外部研修等へ参加していただいている。 ・月1回の業務ミーティングの中でも年間研修計画をたて、職員研修を実施している。		

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡回等に参加させていただいていることで、交流の場は設けられている。 ・近隣グループホームとの職員交換研修会を実施予定。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご利用者依頼から、ご入居までの間にも施設側から何度もご本人とお会いするようにして、入居までの間の不安や、入居してからのご要望を聞き入れ、施設側での対応範囲を検討し、安心して受け入れられるように努めている。(見学も何度かしていただく)		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・施設側からサービス導入前の面談等で、三者の関係性(ご利用者様、ご家族様、施設側)の重要性をご説明させていただき、ご家族の方も遠慮なく相談、悩み事を話せる関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時、まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居依頼があった際には、現在の生活状況、サービス内容、何故グループホームが必要と思ったのか、ご本人が理解されているのか？身体的状況にもより、本当にグループホームでよいのか？その他のその方に合ったサービスがあれば、ご紹介、相談にはのるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・職員には常に逆の立場を考え、自分がされて嫌なことはしないということを認識し、職員も生活環境の一部なんだということをしっかり把握していただいた上で尊重、尊厳を重要視した関係作りを築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族にはご利用前に施設職員、ご本人、ご家族とのネットワークをしっかり作っていきましようということをご説明しており、ご家族には極力面会に来ていただき、関わりを断ち切らないようにしている。 ・施設として、定期的に家族会等を開催したいと思っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご家族の方々以外の面会(友人、親族)等も多々ある。 ・外出、外泊も自由になっている。 ・ご入居者様の親子さん等が暮らしている所へも定期的にお伺いしている。	入居者には孫や姪、友人が訪ねてきている。また、知人に会いに行ったり、馴染みの美容院で毛染する入居者もいる等、できる限り支援している。	

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご入居者様を孤立させない様、極力広間に集まっていたいただき、レク、洗濯、掃除等共同でしていただくことで交流の場を自然にもてるようにしている。関わりが難しい方でも、職員がパイプ役となり、関わりをもっていただけるよう支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退去をされた後も、その後の生活状態を病院、施設、在宅を問わず、確認させていただくようにしている。お会いするのが難しい方であれば、ご家族の方にお電話でお伺いすることもある。その後の生活に不安等を感じているご家族、ご本人からのご相談も積極的に応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定期的にかンファレンスを行い、全体でその人の意向を把握するように、努力している。	思いや希望を聞きだすのが難しい言葉の出ない人、口数の少ない人には、タイミングを見て声をかけている。また家族からも出来るだけ情報を把握するよう努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・3ヶ月に1度、その方の基本情報の見直しを行い、更に情報として、ご家族からもお話を頂き、少しでも馴染みのある暮らしができるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々日常生活シートで、職員は入居者の生活状態を把握できるようになっているが、全体で共有できているかの確認は毎月1度行われる業務ミーティングで行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画書の作成前には、モニタリング、再アセスメントを実施し、ご本人、ご家族の意見、要望もお伺いした後に作成するようにしている。作成後にはご本人、ご家族にも確認をしていただき、その後スタッフ全体で把握、実践に努めている。	管理者、ユニットリーダー、ケアマネジャーが入居者本人・家族の意向を確かめながら計画の骨格をつくり、これを現場スタッフにおおして検討し、基本計画にしている。入居者の変化に応じて随時見直しもしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の個別記録に関しては、様子、出来事、結果等細かに記載するようにしており、職員間でも、いつでも共有できるものとなっている。 ・看護師による看護記録も記載して、入居者の通院結果、往診結果、健康管理のできるものとなっている。		

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個々の要望、ご家族の要望等に関しても、相談、援助は柔軟に対応している。 例(通院介助、公的手続き、買い物、ドライブ etc)		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・民生委員、ボランティアの方々は時折施設に顔を出していただき、関わりをもっていたいでいる。(納涼祭、敬老会等のお誘い等)		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・協力医療機関として、月2回の往診をしていただき、全体の健康管理をいただいている。ご本人、ご家族からもご理解をいただいた上で、ご利用いただいている。他医療機関を受診した方がい方や、精神科等を受診する必要のある方などは、協力医療機関の先生より紹介等をしていただけるようになっていく。	皮膚科、泌尿器科など入居前のかかりつけ医には継続して受診している。日常的な健康管理については、協力医療機関が月2回、歯科医が毎週往診している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・施設看護職員は、入居者全体の体調管理、服薬管理、協力医療機関との連絡調整に努め、24時間オンコール体制で入居者全員が、適切な受診ができるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時以降もご家族との連絡、相談等定期的に状態を確認させていただき、その際は主治医の先生とも情報交換をし、退院時のスムーズな受け入れができるようにしている。ソーシャルワーカーとの情報交換も密にしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・今年は重度化、終末期に対する指針を作成し、施設内での共有を図り、1名の方の支援をさせていただいた。ご本人、ご家族の意向を尊重する為に何度もご本人、ご家族、医療機関、施設側と各役割についてや、施設のできること、できないことなど話し合い、各機関安心して関わられるように支援している。	終末期に向けた対応については施設で基本方針を明文化し、入居時から本人・家族の了解を得ている。急変時の医療機関、訪問看護との連携も出来ており、入居者が安心してホームで生活できる体制である。	

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員全体(常勤職員は完了している)千葉県主催の上級救命救急の講習を受け、知識、技術を身につけるよう支援している。定期的に急変時に備えた対応を職員全体で確認している。職員も慌てずに対応ができるよう、フローチャートも作成している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の消防訓練も器具の使用方法、非難方法、連絡の仕方、消防署立会い等いろいろな組み合わせを想定して研修を行っている。 ・課題として、地域との協力体制を築いていきたい。	通報・避難訓練は年2回実施し、避難場所の公園、小学校への道筋も確認している。災害時用の食品、備品も順次、準備している。地域の協力は民生委員らを通して働きかけており、住宅地で協力は得やすい環境にある。	災害は予想しない形で起きることを考え、地域の協力関係も口約束に終わらぬように、協力体制固めを期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・個々の入居者様に対して、職員は人生の先輩という認識をもって関わるように意識し、声掛け、コミュニケーションのとり方には十分注意している。	年長の入居者に対する尊敬は、日々忘れないように職員一人ひとりが意識している。居室は入居者のプライベートな住まいとの認識のもと、入室の際は「入ってもいいですか」とノックをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・職員は主体性をもった関わりの中で、わかりやすい説明、自己決定をしやすい関わりを意識し、お断りや否定することのないようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個別カンファレンスの中でも、「その人らしい生活を送っていただくには」という議題でも毎回話し合い、その日、その時の状況に沿った生活が送れるよう支援している。 ・職員も業務優先になることもなく、柔軟な対応がとれるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ご本人、ご家族の意向、施設側からみた意見を取り入れ、ご本人の好みにあう物を使用している。 ・月1回は訪問理美容を活用している。 ・定期的に買い物に出て、好みの物を購入していただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・カロリー制限の方、刻み食の方も多い為、調理は賄いがしている。食事の後片付け、お皿洗い等は職員と一緒にしている。 ・朝、夕は一緒に摂取できないが、昼は職員と一緒に食事をしている。	普段はメニューと食材の配送を業者に依頼し、調理は専属の賄いスタッフ数人が交代で行なっているが、ときには入居者の希望で献立を作り、職員と入居者が一緒に食材を買いに行ったりすることも。また、外食を楽しむこともある。	スタッフは勤務体制が許すかぎり入居者と食膳を共にしている。しかし、調査当日は緊張もあるかとは思いますが、黙々と食事をする入居者の姿が見られた。より楽しく食事が出来るよう一層の工夫が期待される。

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・個別に食事摂取量、水分摂取量等をチェックし、状態の把握に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・入居者全員に毎食後の口腔ケアの実施を促している。 ・週1回、歯科衛生士の方が来所され、口腔内の状態、職員へ口腔ケアの対応に対する助言をしてくださる為、清潔保持はできていると思われる。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・日中、夜間共、ご本人の意思を尊重し、トイレに行きたい方はトイレでの排泄を促している。(中には夜間帯のみ、オムツ使用をご本人から望んでいる方もいる)	一人ひとりの排泄パターンを把握し、早めの声かけをして、自立につなげるようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・大半の入居者様は下剤の服用をされている為、排便チェックを行い、医師等と相談をいつつ、排便コントロールができるようにしている。水分摂取も積極的に行い、食べ物も食物繊維類をしっかり摂ることができるよう支援している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入居者様個々の要望に沿って、入浴日を決めている。(ご自分で決められない方などは、職員と関わりながら決定している) ・どのような状態の方でも浴槽にちゃんとつかることができるよう支援している。	入居者一人ひとりの希望に沿って入浴日を決めている。入居者ごとに浴槽の湯を入れ替えている。入浴拒否の人には、その気持ちを汲むことを大切にしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・一人一人の休息、睡眠パターンを把握し、生活リズムが変わらない様、配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬に関しては、看護師が週に1回個々に分包し、間違いがないようにしている。用法や用量についても全員が見れる所にまとめてあり、いつでも確認できるようになっている。 ・職員は、薬の副作用、症状の変化についても早期発見に努め、何かあった際には、主治医への連絡体制も確立している。		

グループホーム春の日 自己評価(ナノハナユニット)・評価結果(全ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・一人一人、その方にあった張り合いや喜びのある生活を送っていただく為にご本人、職員とで役割や楽しみを見出している。 (食事の準備、清掃、散歩、買物、外出、ドライブ、洗濯等)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・その日の希望に沿って、通院、買物、散歩、ドライブ等を行っている。ご家族の方にもその日、その時でご都合のつく時などご入居者様と一緒に外出をしていただいている。	比較的元気な人は希望で週1回買い物に出かけ、車いすの人もおおむね週2回、散歩に出ている。家族も参加して動物公園等に出かけることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現状、18名中1名のみご本人でお金を管理されているという状態で、残りの方々は施設の方で管理させていただいているが、必要な際には、買物等に行き、ご自分で支払いをしていただいたり、銀行、郵便局で現金の入金、振込み、出し入れ等もさせていただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・数名の方はご自分で電話をしていただいたりしている。ご家族からの電話があった際にも取次ぎはしている。 ・近隣にご家族や親族の方が住んでいる方などの所へは、職員と一緒に伺わせていただいている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各共用スペースも広々しており、トイレ、浴室に関しては使用後必ず消毒を行い、次に使用される方も不快無く利用できます。 ・廊下も車いす同士余裕にすれちがうこともでき、歩行訓練としても活用しています。	廊下は広めで、車いす同士がすれ違うのにゆとりがある。窓が大きく室内は明るい。温度計・湿度計が組み込まれた時計を設置して、環境に気配りしている。敷地内には菜園や花畑もつくって、入居者の楽しみとなっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・各居室も7.5畳のスペースもあり、ご家族、ご入居者様同士も余裕をもって過ごせるスペースはある。 ・長い廊下の間に畳イスを用意し、ご入居者様同士、談笑できるスペースがある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・電気、エアコン、テレビ端子は標準装備で、それ以外の物に関しては、使い慣れた物や、好みの物を用意していただき、使用している。	居室は入居者の「わが家」であり、思い通りの部屋づくりが本人・家族に任されている。馴染みのテーブルや椅子、ベッドなどが持ち込まれ、壁には額絵や写真が飾られている。一人ひとりが、落ちつける雰囲気のある部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・共有スペース(廊下、浴室、トイレ)には、手すり等の設置もしており、自立した生活を送れるようにはなっていると思われる。 ・各居室内の環境に対して、必要とされる方々には、福祉用具の活用も勧め、生活環境を整えている。		